

2025年の「清明(せいめい)」は4月4日です。

この「清明」は「清浄明潔(せいじょうめいけつ)」を略した言葉といわれます。春の穏やかな日差しを受けて、天地万物が清々(すがすが)しく、明るくある様が「清明」の時季です。

4月8日は「花祭り」です。

「灌仏会(かんぶつえ)」「仏生会(ぶっしょうえ)」

「降誕会(こうたんえ)」「花祭り」などとも言われ、

お釈迦様の誕生を祝う日です。

お釈迦様は紀元前5世紀頃の4月8日に誕生したと伝えられています。

「誕生仏(釈迦像)」を囲った小さなお堂にたくさんの花を飾った花御堂を安置します。

寺院では法要が営まれ、参拝者は、花御堂の誕生仏に甘茶をかけてお祝いをし、甘茶を飲んだりします。

甘茶をかけるのは、お釈迦様が生まれた時に九頭の龍が現れ、頭から香湯(甘露の雨)を注いだという伝承に由来します。



この時期、様々なイベントが行われ十三参りが有名です。

4月13日に数えで13才になった男女が、

虚空蔵菩薩(こくうぞうぼさつ)にお参りします。

虚空蔵菩薩は智恵と福德の仏として知られていて

虚空蔵菩薩を参拝することで、子供達は、知恵や福德を授かり、厄落としをします。



～春の海 ひねもす のたりのたりかな～

これは江戸時代中期の俳人で画家の与謝蕪村の句です。

1763年頃、蕪村47歳の時の作。春の海で波が終日ゆるやかに、のんびりとゆらめいている情景を描き上げ、読む者の心に、おだやかな春の海が広がるような絵を想像させる。画家ならではの眼差し(まなざし)と、俳人ならではの言語感覚とが、両々相まって生みだされた句と言われています。

この「ひねもす」は「朝から晩まで」「一日中」の意です。

柔らかな日差しの中、穏やかな春の海が一日中、のたりのたりとうねっている様が目に浮かびます。